よしづがわ　いせき

# 吉津川遺跡発掘調査現地説明会

## １　吉津川遺跡へようこそ

三条市教育委員会では、国道４０３号三条北バイパス道路建設工事に伴い、新潟県より委託を受けて、三条市大字下保内（しもほない）地内にある吉津川遺跡の発掘調査を８月から行っています。この調査により発見された村の跡や当時の生活用具などの実物を現地で見学していただき、先人が残してくれた地域の財産である遺跡の保護にご理解をいただければ幸いです。

## ２　吉津川遺跡があったころ

吉津川遺跡（へいあん）では、今から1700年前の古墳（こふん）時代と1200年前の平安時代の村の跡がみつかっています。

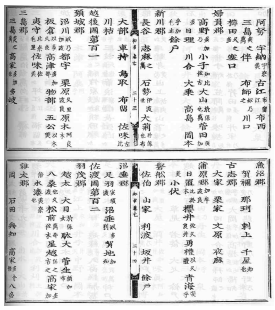
古墳時代に村があった頃、ここから南にみえる山手に前方後円墳（ぜんぽうこうえんふん）などの三王山古墳群（さんのうやまこふんぐん）が造られました。

平安時代の村は、当時の事典にみえる越後国蒲原郡小伏郷（おふし）と呼ばれる行政区に属していました。

また、調査区の東側からみつかった700年前の室町時代に造られた用水路は、この地域が粟生田保と呼ばれていた頃のものです。現在の「保内」という地名はこの頃の呼名に由来します。

三王山古墳群

万葉集に載る「井栗の杜の藤の花」

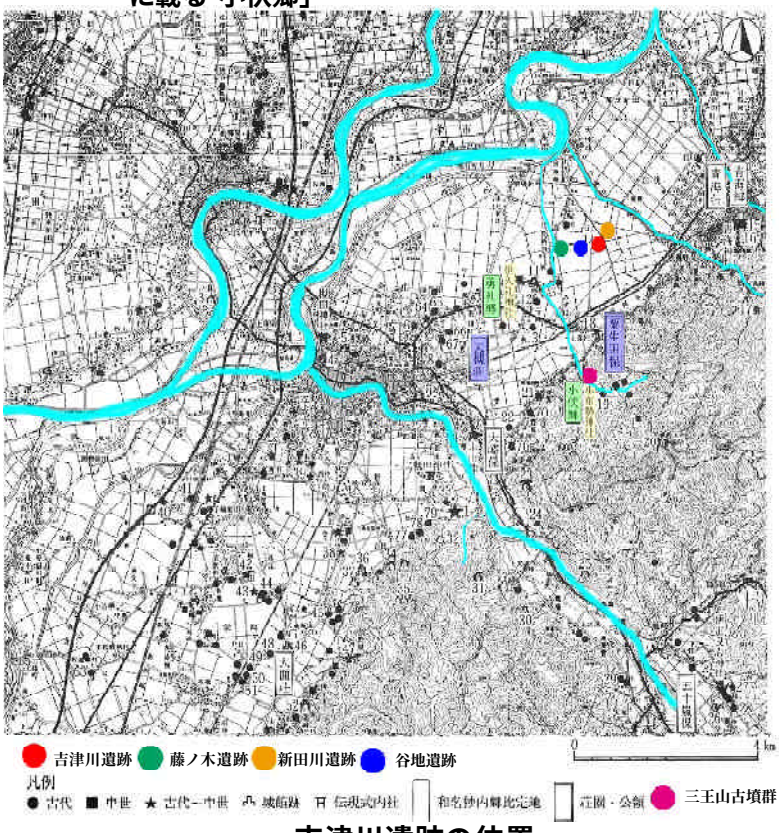


当時の事典『倭名類聚抄』に載る「小伏郷」

平安時代の記録に載る小布勢神社（上）と伊久礼神社（下）

| 西暦 | 時代 | | 日本の主な出来事 | 新潟県の主な出来事 | 三条市の主な出来事 |
|---|---|---|---|---|---|
| 12000 | 旧石器時代 | | 日本列島に人が住み始める<br>ナイフ形石器が使われる<br>細石器が使われる | 川船遺跡の発掘や石器に人が住み始める | 月岡遺跡（月岡）、諏訪山遺跡（柳沢）で石器を用いて人々が住み始める |
| 6000 | 縄文時代 | | 竪穴住居に住むようになる<br>大きな集落をつくるようになる | 火焔土器が流行する | **綾ノ前遺跡**（月岡）はこのころからはじまる<br>上野原遺跡（上野原）に人びとが住む |
| 300<br>BC<br>AD | 弥生時代 | | 大陸から稲作と、金属器が伝わる<br>倭国大乱<br>邪馬台国が栄える | | **八野手遺跡**（上野原）に方形周溝墓つくられる<br>柳沢B遺跡（上野原）に村が営まれる<br>経塚山遺跡（如法寺）が丘陵上に環濠をもつ村をつくられる |
| 300 | 古墳時代 | | 古墳が造営される | 各地に古墳が作られる | **三王山古墳群**（上保内）がつくられる<br>**吉津川遺跡**（下保内）、**白山遺跡**（白山新田）**新田川遺跡**（下保内）、**谷地遺跡**（井栗）などに村が営まれる |
| 538 | | | 大和朝廷の全国統一が進む<br>仏教が伝わる | | |
| 645<br>701 | 古代 | 飛鳥時代 | 大化の改新<br>大宝律令が完成する | 淳足の柵、磐舟の柵が作られる | |
| 710<br>746 | | 奈良時代 | 平城京に都が移る | | 井栗乙郷遺跡（井栗）、館遺跡（長嶺）、綾ノ前遺跡に村が営まれる<br>越中国司として後に万葉集に載る「井栗の藤」の歌が披露される。 |
| 752<br>780 | | | 東大寺の大仏が完成する | 国分寺造られる | 柳沢遺跡が西大寺領田嶋の記録に現れる |
| 794 | | 平安時代 | 平安京に都を移す | 平野の開発が盛んになる | **吉津川遺跡**（下保内）、**来迎寺遺跡**（井栗）、**坪ノ尾遺跡**（下保内）、**新田川遺跡**（下保内）、**合屋遺跡**（西長嶺）などに村が営まれる |
| 927 | | | 藤原氏が政治の力を握る | | 勇礼郷・小伏郷や伊久礼神社・小布勢神社・柳田神社・中山神社が記録にみえる<br>大面庄、大槻庄など寄進地系荘園ができる |
| 1192<br>1297 | | 鎌倉時代 | 源頼朝が鎌倉幕府を開く | | **綾ノ前遺跡・菖蒲沢遺跡**（月岡）、**経塚山遺跡**（如法寺）、**経塚山遺跡**（如法寺）、**山吉田遺跡**（吉田）で村が営まれ大規模な用水路が造られ上田、青蓮寺庵（後の本成寺）を創建する |
| 1338<br>1382 | 中世 | 室町時代 | 足利尊氏が室町幕府を開く | | **吉津川遺跡**（下保内）で大規模なよう用水路が作られる。室町時代から戦国時代にかけて姫ノ城（上保内）、三条要害（大崎）などの山城が丘陵部に築かれ、平野部に下坂井遺跡（下坂井）、吉田館（吉田）、**藤ノ木遺跡**（井栗）など館が築かれる<br>三条の地名が記録に初めてみえる |
| 1426 | | | | 応永の乱再乱する | 応永の乱再発し山吉久盛の守る三条島之城攻撃される |
| 1467<br>1510<br>1535<br>1569 | | 戦国時代 | 応仁の乱おきる | 永正の乱起きる<br>永正の乱再び起きる<br>上杉謙信（謙信）が武田信玄と戦う | 山吉盛盛と上杉勢定三条要害で戦う<br>この頃三条城は山吉豊守が上杉謙信の側近として活躍する |
| 1573<br>1577<br>1578<br>1580<br>1584<br>1590<br>1598<br>1600 | | 安土・桃山時代 | 織田信長が将軍義明を京都から追放 | 御館の乱起きる<br>豊臣秀吉が全国を統一する<br>上杉景勝会津へ移る | 神余親綱三条城主となる<br>三条城落城する<br>三条城主甘糟長重 三条城の普請を完成する<br>堀直政三条城主となる<br>関ケ原の戦いが起こる |
| 1603<br>1616<br>1623<br>1642 | 近世 | 江戸時代 | 江戸幕府開かれる | | 市橋長勝三条城主となり、現在の元町付近に新城を築く<br>三条藩陣屋となる<br>幕府により長岡藩主牧野忠成三条城破却する |

遺跡が語る三条市年表




吉津川遺跡の位置

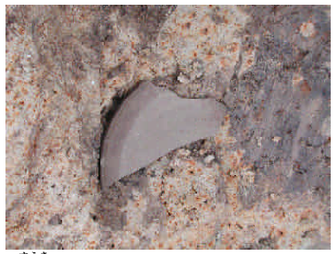
## ３　調査で見つかった村の跡と生活道具

### 平安時代の村跡

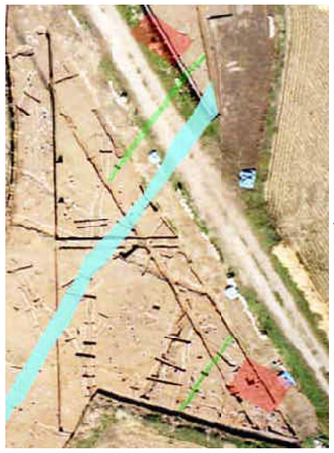
平安時代ここは村のはずれ、または建物がまばらな散村であったと考えられます。建物跡、土地を区画する溝や用水路が発見されています。また、その頃に地震があり、地割れや砂の噴き上げが発見されています。

**村の跡**
土地を区画する溝にあわせて建物の位置をデザインしています。わかりますか？

**柱根**
ここに柱が建っていました。柱の根元が残っていたのでそれがわかったのです。



**須恵器**（すえき）
9世紀前半ごろの焼き物の蓋です。



**平安時代の用水路、溝**
二つの調査区を貫く用水路やそれに平行して延びる、土地を区画する溝が見つかりました。

**地割れと断層の跡**
地割れを断面で観察しましょう。層のズレがわかりますか？

**地割れ**
地割れと溝が重なっています。不規則な形状のものが地割れです。地割れは北北東～南南西の方向にのびています。

**土師器**
赤茶色の素焼きの土器です。発掘調査ではこのような状態で発見されることが多いです。

**調査区全景**
調査が終了すると上空から写真を撮影します





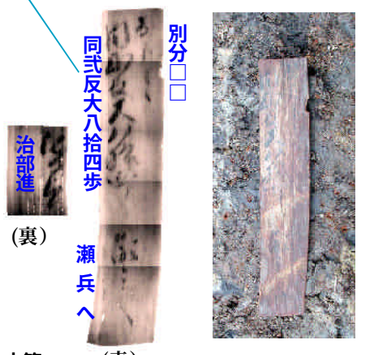
### 大開墾（だいかいこん）時代の用水路跡

SD30と呼んでいる大用水路は、調査区東側を南北に流れていて、幅約４ｍ、深さ約１ｍの大きさで確認されました。大用水路からは木簡（もっかん）、土器、陶磁器、漆器（しっき）、木製品（もくせいひん）が出土しています。使用されていた時期は、底面から中世の焼き物である珠洲焼（すずやき）が出土していることから中世以降と考えられます。平安時代の用水路と比べ規模が大きく、大開墾時代と言われる中世に吉津川遺跡周辺にも、大規模工事を行うことができる有力者がいたと考えられます。現在吉津川遺跡周辺にある用水路もほぼ同じ方向に造られています。三条市内では同じ頃に造られたと考えられる大きな用水路が、数箇所で発見されています。

S=1/1000

**大用水路**
中世以降の用水路です。当時の地形を利用して造られています。

**堰**（せき）
用水路の両側に杭が確認されました。他に比べ幅が広く深い状況が観察されました。取水や水量調整に使用されたと考えられます。




**木簡**
文字を書いた木札です。用水路周辺に開墾された水田や検地などのようすを考える上で大変重要な遺物です。
さて文字は何と書いてあるでしょうか？

**漆器**
中世は焼き物に代わり木で作られた器が主に使用されるようです。漆塗りの椀は今でも使われていますよね。

**用水路の発掘作業**
用水路の発掘には多くの労力がかかりました。この用水路の開削は、大工事だったのでしょう。

**鉄製品**
鳥のくちばし状の鉄製品です。棒の先端につけて、物をひっかけたり壊したりする道具と考えています。あなたはこの道具が何に使われたと思いますか？

**下駄(連歯）**
台と歯を一木で作る連歯下駄です。

**下駄(差歯）**
台に歯を差し込んで作った差歯下駄です。連歯下駄と作りの違いを観察しましょう。

# ４　三王山古墳群を望む村の跡

試掘調査のようす

大量に出土した土器

平成11年度に、地下に埋もれている遺跡の状況を調べるための試掘調査を行ないました。その結果、吉津川遺跡では、地表から1.8ｍ下に、今から1700年前の古墳時代に使われた大量の土器がみつかり、当時の村の跡があることがわかりました。

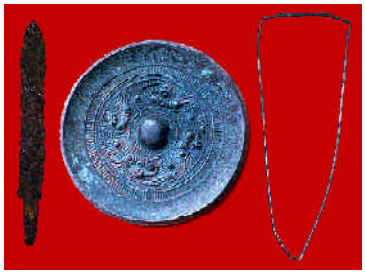
試掘調査で出土した土器は、このように完全な形に復元できました。

現在、調査は平安時代の遺跡の発掘が終了し、その下に深く埋もれている古墳時代の遺跡の発掘の準備作業を進めています。

準備作業のようす

山の尾根沿いつくられた三王山古墳群

吉津川遺跡に、古墳時代の村が営まれていたころ、南みえる山地には、この地域を支配した王のお墓である前方後円墳などの三王山古墳群が造られました。


一番古い古墳から出土した副葬品（ふくそうひん）

古墳は、支配した地域を一望できる場所に造られます。このことから、吉津川遺跡の村も三王山古墳群に眠る王によって治まられていた村の一つであると考えられます。

三王山古墳の造られ方をみると、吉津川遺跡周辺からみたときに、立派に見えるように丁寧に造られています。これは、特にこの村周辺を意識して、古墳の存在をアピールしているかのようです。このことから、王と特に関係する地域であった可能性が高く、王の住まいである館が埋もれている可能性があります。

晴れた日に、この村から古墳を望むと、西の日を浴びて輝いた大きな古墳が厳かに見えたことでしょう